

卒前・卒後のシームレスな医師養成について

医師を養成する課程である卒前教育と卒後教育は、分断され、連続性が乏しいと評されてきた。医師が修得すべき知識・技能が増加していることや、患者や他の医療者とのコミュニケーションの重要性が増していることなどから、卒前教育においても医学生が診療に参加し、卒前・卒後の医師養成を、医療現場を中心として一貫して行う必要性が認識されてきた。その結果、卒前・卒後のシームレスな医師養成という目標が掲げられ、近年は様々な取り組みが実施されてきた。例えば、共用試験 CBT において確認される知識や質などを評価し、第 112 回医師国家試験から出題数が 500 問から 400 問に変更されたこと、臨床研修制度について、令和2年度からの制度見直しにあたって、医学教育モデル・コア・カリキュラムと統合的な到達目標・方略・評価を作成されたこと、臨床実習と臨床研修の経験を継続的に記録できる評価システムの導入が進められていることなどである。加えて医師法改正が行われ、共用試験の公的化ならびに Student Doctor が医業を行えるようになった。学生の皆さんも第 4 学年次後半から始まる臨床実習においては、診療チームに一員であるという自覚を持ち、診療貢献・患者貢献を目標として真摯な態度で臨むこと。

本学においても「学修成果と臨床研修到達目標の関連」を掲載しているので参照すること。以下に医道審議会の資料を掲載する。

臨床研修到達目標と医学教育モデル・コア・カリキュラムの関係について	
医学教育モデル・コア・カリキュラム(卒前)	臨床研修の到達目標(卒後)
医師として求められる基本的な資質・能力	医師としての基本的価値観 (プロフェッショナリズム)
1 プロフェッショナリズム	1 社会的使命と公衆衛生への寄与
	2 利他的な態度
	3 人間性の尊重
	4 自らを高める姿勢
	資質・能力
2 医学知識と問題対応能力	1 医学・医療における倫理性
3 診療技能と患者ケア	2 医学知識と問題対応能力
4 コミュニケーション能力	3 診療技能と患者ケア
5 チーム医療の実践	4 コミュニケーション能力
6 医療の質と安全の管理	5 チーム医療の実践
7 社会における医療の実践	6 医療の質と安全の管理
8 科学的探求	7 社会における医療の実践
9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	8 科学的探求
	9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

プロフェッショナリズムについて(利他的教育を含む)

上記の表で特徴的なことはプロフェッショナリズム教育が重視されていることである。まず、プロフェッショナルとは何かというのが問題だが、プロ野球など専門的で高度な技術を持って生計を立てるという意味だけではない。本来は、医師、弁護士、聖職者などの集団で、社会に対して自律性を宣言し、集団内でのパフォーマンスを自主的にコントロールする社会的責任を持ち、倫理綱領を持つと定義されている。医師のプロフェッショナリズムの定義も様々であり、卓越性・人間性・説明責任・利他主義の4つを要件にあげる場合もあるが、上記では社会使命と公衆衛生への寄与、利他的な態度、人間性の尊重、自らを高める姿勢、医学・医療における倫理性などが挙げられている。この中で皆さんが聞き慣れないのは「利他主義」、「利他的」という言葉だろう。利他とは自分を犠牲にして他人に利益を与えること、他人の幸福を願うこと、自分の利益よりも、他人の利益を優先するなど定義されると思う。学生の皆さんにとっては難しいかもしれないが、まずは日常生活での他人への思いやり、後輩や友人へのポジティブな働きかけ、予防接種をはじめ疾病予防や健康への積極的な行動を心がけること。

ディプロマ・サプリメントについて

本学を卒業する際、学位記(卒業証書)とともにディプロマ・サプリメントを卒業生の皆さんに渡すが、これは学生個人の学修成果の達成度を可視化すること、つまりディプロマ・ポリシーに掲げた学生の学修成果の目標に対し、それぞれの学生がどのように達成したか等を示すものである。本学は医学部のため、臨床実習等で経験した症例や症候の一覧も含まれている。自分の記録として大切にすること。